

平成 25 年の平和宣言について

1 宣言作成の基本姿勢

(1) 昨年と同様、今年も被爆体験談を盛り込むこととし、「被爆体験に関する懇談会」での意見を踏まえ、市長が起草する方法とした。

(2) 被爆体験談は、今年初めてテーマを「心身の傷や差別、偏見に苦しみながら、広島復興を支えてきた被爆者の姿」と設定して公募し、応募いただいた 56 点の中から、テーマに沿う 3 点を盛り込んだ。また、懇談会のメンバーからも体験談を持ち寄っていただき、公募による被爆体験談を補った。

体験談は、懇談会の意見を踏まえ、① 8 月 6 日の惨状、② 戦後の被爆者の苦しみ、③ それを乗り越えた平和への思いと若い世代へのメッセージという構成で選定した。

(3) 被爆体験談以外の要素については、まず、これまでと同様に、「核兵器廃絶に向けた訴え」、「被爆者援護施策充実の訴え」、「平和への誓い」、「原爆犠牲者への哀悼の意」の要素を盛り込んだ。

加えて、時代背景を踏まえた要素として、核兵器廃絶等に向けた世界の動きに関する事項、東日本大震災と国のエネルギー政策に関する事項等を盛り込んだ。

(4) 昨年同様、平和宣言を広く市民に共感してもらうため、出来るだけ理解しやすい表現に努めるとともに、具体的な年月日を示すなど若い世代への継承も意識した。

2 宣言に盛り込んだ主な内容

(1) 盛り込んだ被爆体験談

ア 被爆体験談の内容

(ア) 当時 8 か月の女性

結婚して 1 か月後、被爆者とわかって以降、義母から差別され、離婚させられた苦しみを語る内容。(引用箇所:『あんた一、被爆しとるんね一、被爆した嫁はいらん、すぐ出て行け一。』と離婚させられました。)

(イ) 当時 16 歳の女性

核兵器廃絶を願う強い思いを語る内容。

(引用箇所:「私のような残酷な目にあわせてはならない。」)

(ウ) 当時 14 歳の男性

後障害に悩まされる中での健康への思いや若い世代へのメッセージを語る内容。

(引用箇所:「健康が欲しい。人並みの健康を下さい。」「地球を愛し、人々を愛する気持ちを世界の人々が共有するならば戦争を避けることは決して夢ではない。」)

イ 「被爆体験に関する懇談会」のメンバーから提出された被爆体験談

(ア) 一発の原子爆弾によりその全てを消し去られた家族の状況を語る内容。

(イ) 幼くして家族を奪われ、生涯を通じ家族を持たず、孤老となった被爆者が、長年にわたる苦しみを振り返る内容。

(2) 核兵器廃絶に向けた訴え

- ア 平均年齢が78歳を超えた被爆者が、平和への思いを訴え続け、世界の人々が進むべき道を正しく選択するよう願っていることに触れ、私たちは、その被爆者の願いに応え、核兵器廃絶に取り組むための原動力にならなければならないと訴える。
- イ 広島市は、平和市長会議の加盟都市や国連、NGOなどと連携し、2020年までの核兵器廃絶を目指す取組に全力を尽くすことを誓う。
- ウ 世界の為政者に対し、広島訪問と信頼と対話に基づく安全保障体制への転換を求める。
- エ ヒロシマは、日本国憲法が掲げる崇高な平和主義を体現する地であり、人類の進むべき道を示す地でもあると言及する。
- オ 北東アジアの平和と安定のため、北朝鮮の非核化や北東アジアにおける非核兵器地帯の創設に向けた関係国の努力を求める。
- カ 日本政府に対して、インドとの原子力協定交渉への懸念を表明するとともに、来年春に広島で開催される「軍縮・不拡散イニシアティブ」外相会合において、NPT体制の堅持・強化を先導するよう求める。

(3) 核兵器廃絶等に向けた世界の動き

- ア 核兵器の非人道性を踏まえて、その廃絶を訴える国が増加していることに言及し、それらの国々との連携強化を日本政府に求める。
- イ 米国大統領の核兵器削減に関するロシアへの呼び掛けに言及する。

(4) 被爆者援護施策充実の訴え

日本政府に対し、被爆者や黒い雨体験者の実態に応じた支援策の充実や「黒い雨降雨地域」の拡大を求める。

(5) 東日本大震災と国のエネルギー政策に関する言及

- ア 復興の困難を知る広島市民は、被災者の思いに寄り添い、応援し続けることを伝える。
- イ 日本政府に対し、国民の暮らしと安全を最優先にした責任あるエネルギー政策を早期に構築し、実行することを求める。

(6) 平和への誓いと原爆犠牲者への哀悼の意

「絶対悪」である核兵器の廃絶と平和な世界の実現を誓うとともに、原爆犠牲者の御霊に哀悼の誠を捧げる。

3 宣言文

別紙のとおり。(8月6日平和宣言開始後解禁)

(参考資料1)

被爆体験に関する懇談会の開催結果

(参考資料2)

被爆体験談を書かれた方(3名)のコメント等